

3デームに絞り議論

低入札、今年度も焦点

建コン協意見交換会、8日中部からスタート

建設コンサルタンツ協会（廣谷彰彦会長）と国土交通省地方整備局など公共発注者との意見交換会が、8日の中部地区を皮切りに、7月17日の北海道まで全国9カ所で開かれる。建コン協が用意しているテーマは、①技術力による選定の建設コンサルタンの新たな役割②品質の確保と照査——の3つで、2008年度の4テーマからさらに絞り込んだ。前年度に焦点となった低価格入札については、国交省が対策を打ち出しているものの、依然として収まっていなため、今回も議論となりそうだ。

技術力による選定は、地方自治体でのプロポーサル方式の普及、総合評価落札方式の適切な運用、意欲のある企業の参画を挙げている。国交省を中心に国の機関は、プロポーサルを積極的に採用しているが、自治体は県レベルでも年間数件と少ないのが実態だ。技術競争を浸透させるため、自治体にプロポーサルの拡大を求める。国交省が08年度に本格導入した総合評価方式は、実質的に価格競争に陥っているため、価格と技術の配点割合や評価の方法など問題点を議論する。

る仕組みづくりのほか、設計・施工一括発注方式の場合、コンサルがコンソーシアムで設計者として参加できるように求める。また、施工段階で設計者が参画する三者会議は、工事着手前だけでなく設計変更の協議・審査の段階でも参加するとともに、出席した場合の報酬は現行の直接人件費程度を改善するように要望する。前年度は、低価格入札とともに設計ミスが話題になった。建コン協もこの問題を重視、品質向上推進特別本部を設置したほか、09年度から関東、中部、近畿地区で支部と地方整備局が共同でミスの根本的な原因を探り、対応策を検討する体制を整えた。こうした状況を踏まえ品質の確保・照査は、早期発注や納期の年度末集中の解消、低入札の実施、地域コンサルと専門コンサルなどの共同設計方式の活用を主張している。

交換会の日程は、次のとおり。
▽中部 8日、KKRホテル名古屋（名古屋市中区）▽近畿 12日、KKRホテル大阪（大阪市）▽関東 24日、関東地方整備局（さいたま市）▽九州 30日、ホテルセントラザ博多（福岡市）▽中国 7月1日、八丁堀サンデ（広島市）▽四国 2日、サンポート合同庁舎（高松市）▽東北 7日、東北地方整備局（仙台市）▽北陸 8日、新潟東映ホテル（新潟市）▽北海道 17日、ホテル札幌カーデンパレス（札幌市）。